

令和2年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門			
政策No.	22	高齢者のいきいきと充実した地域での生活を支援する	
所管部	保健福祉支援部	関係部	
2 政策がめざす方向性			
<p>高齢者が地域の中で心豊かにいきがいを持って元気に活躍できる活動の場を確保し、社会参加を促進します。介護予防を積極的に推進し、高齢者の健康で自立した生活を支えます。日々の見守りや生活支援、災害時の備え、高齢者の権利擁護などを推進するとともに、特別養護老人ホーム等の生活の場を充実します。高齢者が要介護状態になった場合の在宅生活を支える様々なサービスを充実します。高齢者の誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせる地域共生社会の実現をめざします。</p>			
3 施策の取組状況（詳細別紙施策評価シート）			
評価区分 A（達成）、B（概ね達成）、C（達成が不十分）			
①	施策名	心豊かに充実した生活の支援	評価 B
	成果目標	いきがいを持って元気に活動する高齢者が増加し、地域での交流が進んでいる	
②	施策名	健康で自立した生活の支援	評価 A
	成果目標	地域で健康でいきいきと暮らす高齢者が増えている	
③	施策名	地域で安心して暮らせる基盤の整備	評価 A
	成果目標	地域の多様な主体で支え合う仕組みづくりが進み、住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者が増えている	
④	施策名	安心して住み続けられる住まいの確保・支援	評価 B
	成果目標	高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるための基盤が確保されている	
⑤	施策名	在宅生活を支えるサービスの充実	評価 A
	成果目標	住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう、高齢者福祉サービスや介護保険サービスが充実している	
4 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
予算額	9,263,261	9,492,115	10,154,329
流用・補正	△ 138,029	△ 154,341	—
決算額	8,808,507	8,867,360	—
執行率	96.5%	95.0%	—
予算・決算額の推移	在宅支援サービスの充実及び受給者数の増加に伴い、予算額は増加傾向にあります。執行率は、ほぼ同水準で推移しています。		

5 政策を取り巻く社会経済状況等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済状況 ・人口動向（年少人口、生産年齢人口、老年人口） ・財政状況など 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年1月1日現在、港区の65歳以上の高齢者人口は、44,051人(外国人を含む。)で、高齢化率は16.92%となっています。人口推計によると団塊の世代がすべて75歳以上となる令和7年には、65歳以上の高齢者人口は46,627人となり、高齢化率は16.12%に微減します。しかし、令和12年の65歳以上の高齢者人口は52,173人となり、高齢化率は16.34%と上昇に転じ、65歳以上の高齢者は令和2年1月1日現在と比較し、約8,100人増加すると見込まれています ・とりわけ、75歳以上の後期高齢者は、令和2年の22,474人から令和7年は26,406人、令和12年には27,949人となり、介護を必要とする高齢者や認知症高齢者が増加することが見込まれます。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、高齢者の就労、介護予防、地域交流などを取り巻く環境が大きく変化しています。
<p>区民ニーズ等</p> <p>※区民アンケートや調査、区民から寄せられた意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・港区保健福祉基礎調査の結果から、福祉サービスへの安心感、生活のしやすさを感じているという意見がある反面、将来への不安、特に介護にかかる経済的負担、介護者の負担、サービス水準について不安を感じている意見も多くみられます。 ・サービス等の情報が不足しているとの意見があり、区民への情報提供の更なる充実が必要です。 ・75歳以上の高齢者に送付した新型コロナウイルス感染症に関するご案内の返信はがきから、新型コロナウイルス感染症への不安の訴えが多くあり、高齢者の感染予防のための取組が必要です。

6 一次評価（所管部門による評価）

<p>政策の達成状況</p>	<table border="1"> <tr> <td>施策の達成度</td> <td>A:達成 3</td> <td>B:概ね達成 2</td> <td>C:達成が不十分 0</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業については、区民ニーズに対応し、事業及び定員の拡大、区民への周知の強化等に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、介護予防事業は、実施体制を工夫しながらサービスを提供していく必要があります。 ・認知症サポーター養成講座は、区職員、区民、区内企業、大学など幅広い世代と職種の人が受講しています。受講者数は目標値を大幅に超えており、認知症の人と家族の支援の体制づくりが進んでいます。 ・介護保険施設の整備については、特別養護老人ホームは整備目標を達成していますが、小規模多機能型居宅介護施設及び認知症高齢者グループホームについては、一部整備地等が検討中の施設があり、整備の目標年度を越える可能性があります。 	施策の達成度	A:達成 3	B:概ね達成 2	C:達成が不十分 0
施策の達成度	A:達成 3	B:概ね達成 2	C:達成が不十分 0		
<p>今後の政策の方向性</p> <p>重点的・優先的に取り組む施策、課題等</p> <p>※国や東京都、他団体の動向、区民ニーズ等を踏まえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、令和7年には団塊の世代がすべて後期高齢者になることを見据え、高齢者が要介護状態になることなく、健康でいきいきと生活し続けられるよう、更なる事業の推進や支援の充実を図る必要があります。 ・高齢者がいつまでも健康で元気に暮らしていけるよう、通いの場で専門職によるきめ細かな活動のサポートを行うとともに、区や住民主体で行う介護予防の効果分析・検証を進め、より効果的に介護予防事業を推進する体制を構築します。 ・認知症高齢者の増加を見据え、認知症に関する相談体制の充実、認知症サポーターの更なる養成及び活用等により、認知症高齢者や介護家族の支援を充実します。 ・高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、在宅サービスの更なる充実や住まいの確保・支援に取り組めます。 				

7 二次評価（港区行政評価委員会による評価）

<p>政策の達成度</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A:達成 <input type="checkbox"/> B:概ね達成 <input type="checkbox"/> C:達成が不十分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策「心豊かに充実した生活の支援」の活動指標「いきいきプラザの整備」は整備が若干遅れたことで「B：概ね達成」と評価されていますが、「A：達成」としても差支えないものと評価できます。 ・施策「健康で自立した生活の支援」「地域で安心して暮らせる基盤の整備」については、すべての活動指標が目標に達しています。 ・政策としても総合して成果目標を達成しているものと評価します。
<p>今後の政策の方向性</p> <p>重点的に取り組む施策・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政策の方向性は概ね妥当であるため、引き続き推進する必要があります。 ・今後、団塊の世代が後期高齢者となり、更なるニーズの高まりが予想されます。

施策評価シート

施策① 心豊かに充実した生活の支援						A:達成、B:概ね達成、C:達成が不十分
施策担当課	高齢者支援課	関係課	保健福祉課 麻布地区総合支所管理課	評価	B:概ね達成	
成果目標	いきがいを持ち、元気に活動する高齢者が増え、地域での交流が活発に行われている					
成果目標の達成状況及び評価	高齢者人口の増加を踏まえ、高齢者が健康を維持し、地域で役割をもって活躍できるよう、地域における活動の機会や場所づくりを支援しました。					
今後の施策の方向性・課題	高齢者が地域で元気に活躍できる取組をさらに進める必要があります。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 いきいきプラザ等の充実						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
いきいきプラザの整備	-	1館 改築中(麻布)	-	-	1館 設計(麻布)	B:概ね達成
達成状況	麻布いきいきプラザの改築については、令和6年度の開設に向け、平成30年度中に住民との調整を経て、令和元年度公共施設整備検討委員会へ「整備計画(素案)」を付議し了承されています。令和2年度に「港区立麻布いきいきプラザ等新築工事基本設計・実施設計業務委託」についてプロポーザル方式により事業候補者を選定します。					
今後の方向性・課題	今後の高齢者人口の推移から、各地区ともいきいきプラザ等利用の需要は引き続き増加していくものと考えられます。今後は1館当たりの60歳以上人口の多い地域を中心に、介護予防総合センター、スポーツセンターや健康増進センターなど高齢者が利用する他の健康づくり施設の利用状況や、いきいきプラザに対する地域要望や各館の混雑の状況等も踏まえながら整備の必要性を分析します。					
2 社会参加の促進						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
介護予防リーダー養成講座修了者数	130人	200人	162人 (+32人/年)	179人 (+17人/年)	200人 (+21人/年)	A:達成
達成状況	介護予防リーダーの養成を促進するために講座内容や実施回数を見直したほか、平成30年度に介護予防リーダー・サポーターを対象に行った意識調査で得られた実態から、今後のより効果的な支援に向けた準備を行いました。また、新たな取組として高齢者相談センター、シルバー人材センター及びいきいきプラザと連携して、シルバー人材センターの登録会員を対象に、今後の地域活動の担い手につながることを目的とした介護予防講座を実施しました。					
今後の方向性・課題	他地区で介護予防サポーター養成講座を開催するほか、担い手が高齢になっても元気に活動ができるよう専門職による健康サポートを行うことで、地域での住民主体による介護予防活動の更なる活性化を図ります。					
3 高齢者の就業支援						保健福祉課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
シルバー人材センター就業実人員	1,240人/年	1,275人/年	1,243人/年	1,340人/年	1,270人/年	A:達成
達成状況	平成28年度から、請負・委任契約に加えてシルバー派遣事業を開始し、より多様な働き方が可能となりました。また、会員の就業ニーズを適切に把握しそれに沿って就業創出員が就業先を開拓したことによって就業実人員が増加したと認識しています。					
今後の方向性・課題	現在、シルバー人材センターの60代前半の入会者は低い数値で推移しています。雇用年齢延長などによって、今後さらに同年齢の入会者数が落ち込むことも想定されます。そのため、就業先の拡大だけでなく、会員の就業ニーズに沿った就業分野の開拓を行う必要があります。また、就業の観点だけでなく、会員が健康と社会とのつながりを維持し続けることができるよう、ボランティア活動や趣味・特技を活かすことができる場など会員同士の交流の場を提供していくことが重要です。					

施策評価シート

施策② 健康で自立した生活の支援						A:達成、B:概ね達成、C:達成が不十分
施策担当課	高齢者支援課	関係課		評価	A:達成	
成果目標	地域で健康でいきいきと暮らす高齢者が増えている					
成果目標の達成状況及び評価	いきいきプラザなど身近な場所で多様な介護予防事業を実施し、年々参加者も増加しています。介護予防総合センターを中心に、様々なイベントなどの機会をとおして、介護予防の普及啓発に取り組みました。区民が主体的に実施する自主活動グループへの支援として、立ち上げ支援のほか、専門職の派遣や道具の貸出など、介護予防総合センターにおいて積極的に実施しました。					
今後の施策の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止のため、高齢者が自宅で過ごす時間が増えたことで、運動不足による筋力や身体機能の低下が懸念されます。介護予防事業の推進だけでなく、個々のライフスタイルに応じた多様な取組も提案する必要があります。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 介護予防の総合的な推進						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
健康トレーニング事業参加者数	11,850人	25,800人	16,507人 (+4,657人/年)	21,153人 (+4,646人/年)	23,033人 (+1,880人/年)	A:達成
達成状況	抽選になる場所もある現状で、新型コロナウイルス感染症拡大の防止による影響で3月の事業が中止となりましたが、参加者数は計画どおり達成しています。					
今後の方向性・課題	健康なうちから介護予防へ取り組める事業、介護予防の取組を習慣づけられる事業として今後も実施します。令和2年度の前半の事業が中止となったため、健康トレーニング事業参加予定者の方へのフォローが必要です。					
2 健康な生活を維持するための支援						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
介護予防総合センター（ラクっちゃん）利用者数	41,200人/年	45,000人/年	50,788人/年	50,138人/年	50,500人/年	A:達成
達成状況	区全体の介護予防効果が高められるよう、介護予防の中核施設としての機能を強化するとともに、地域共生社会の発展につながるよう、区民のいきがづくりや社会参加、互助の推進に注力しました。具体的には、これまで行ってきた介護予防効果の分析業務の更なる強化を図るため、介護予防個別支援システムの分析機能の拡充に向けた協議を区と進めました。また、今後の介護予防に関する意識調査の実施内容を見直し、介護予防事業に参加するメリットや事業効果、事業検討に必要なニーズや実態を計画的かつ効率的に把握できるよう整理を行いました。					
今後の方向性・課題	介護予防ボランティアを主軸とした地域づくりとして、これまでの生活機能の向上だけでなく社会参加につなげるプログラムの開発や、担い手が高齢になっても元気に活動ができるよう専門職による健康サポートを行うなど、多様な介護予防事業や講座、講習会を実施しました。また、介護予防フェスティバルなど各種イベントをとおして介護予防の普及、推進に努めました。今後も、地域での住民主体による介護予防活動の更なる活性化を図ります。					
3 地域の自主活動支援と連携強化						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
介護予防リーダーが実施する自主活動グループ団体数	15団体	20団体	25団体 (+10団体/年)	27団体 (+2団体/年)	28団体 (+1団体/年)	A:達成
達成状況	自主活動グループの立ち上げ支援のほか、活動継続支援として、交流会の開催や理学療養士や管理栄養士などの専門職の派遣などを行いました。					
今後の方向性・課題	住民が主体的に地域で活躍できる場として、今後、介護予防リーダーの養成の強化も含め、さらに自主活動グループが増えるよう支援の強化に努めます。					

施策評価シート

施策③ 地域で安心して暮らせる基盤の整備						A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分
施策担当課	高齢者支援課	関係課	高齢者支援課	評価	A：達成	
成果目標	地域の多様な主体で支え合う仕組みづくりが進み、住み慣れた地域で安心して暮らす高齢者が増えている					
成果目標の達成状況及び評価	高齢者の増加や、認知症・介護への関心の高まりに伴い、認知症サポーター養成講座・介護家族サポーター養成講座の受講者数や、交流の場としてのサロンが増えました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ふれあい相談員や高齢者相談センターの相談については、電話相談が重要になっています。					
今後の施策の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症の流行により、交流の場や養成したサポーターの活動が困難になっています。感染予防を考慮した講座実施の検討を進めるとともに、相談によって、高齢者のニーズの聞き取りや支援を進めます。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 認知症ケアの推進						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
認知症サポーター養成者数	15,900人	21,900人	18,554人 (+2,654人/年)	21,284人 (+2,730人/年)	23,000人 (+1,716人/年)	A：達成
達成状況	区の職員をはじめ、区民や区内企業、大学など幅広い世代に受講していただき、認知症に関する正しい知識を身につけてもらうことができました。					
今後の方向性・課題	新規認知症サポーターの養成だけでなく、その後の支援につながるよう、認知症サポーターを対象にステップアップ講座を実施し、認知症の人の地域支援体制を充実させる必要があります。また、企業からの受講希望が多く、日程調整や人材派遣が難しくなっているため、オンラインでの講座実施などの推進をしていく必要があります。					
2 医療・介護・保健・福祉の連携						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
認知症初期集中支援対象者数	12人	48人	29人 (+17人/年)	41人 (+12人/年)	50人 (+9人/年)	A：達成
達成状況	医療サービスや介護サービスを受けていない人が継続的にサービスを受けられるよう、地域における認知症の早期診断・早期対応を行いました。					
今後の方向性・課題	引き続き、医療サービスや介護サービスを受けていない人が継続的にサービスを受けられるよう、地域における認知症の早期診断・早期対応を推進します。					
3 安全・安心を支え合う地域づくりの推進						高齢者支援課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
交流の場であるサロンの数	43か所/年	63か所/年	66か所/年	66か所/年	71か所/年	A：達成
達成状況	生活支援コーディネーターが地域資源情報を収集する中で、交流の場として様々な団体や機関がサロン（居場所づくり）を行っていることを把握し、サロン活動の開始、運営等の支援や活動の活性化を図りました。					
今後の方向性・課題	様々なサロン活動の事例を紹介する機会を作り、サロン活動を始めたい人に対し見学等の繋がりづくりの支援をしながら、サロン活動数を増やします。代表者の高齢化により活動を終了するサロンもあり、そのようなサロンへの支援が必要です。					

4 ひとり暮らし等高齢者の在宅生活の支援 高齢者支援課

活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
ふれあい相談員訪問世帯数	4,790世帯/年	4,910世帯/年	5,393世帯/年	5,360世帯/年	5,327世帯/年	A：達成
達成状況	ひとり暮らし等高齢者の見守りと支援を行うふれあい相談員が、積極的に地域の高齢者の自宅を訪問し、高齢者の困りごとなどの相談を受け、民生委員・児童委員や高齢者相談センター等と連携し、支援を行いました。また、令和2年2月には「見守り活動報告会」を開催し、活動報告を行うとともに、ひとり暮らし等高齢者が地域の中で安心して暮らし続けられるよう、高齢者の見守りに関する協定事業者等関係機関と連携を深めました。					
今後の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、感染すると重症化する高齢者宅への訪問は細心の注意が必要です。感染拡大防止の対策を図りながらも、丁寧な相談を実施するため、電話による相談方法も取り入れ、高齢者の見守りや支援を行う必要があります。					

5 高齢者の権利擁護の推進 高齢者支援課

活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
高齢者相談センターにおける権利擁護に関する相談件数	4,600件/年	4,900件/年	3,291件/年	4,176件/年	3,966件/年	A：達成
達成状況	高齢者虐待への相談・対応、成年後見等の周知・対応、消費者被害拡大防止の対応など、各地区総合支所区民課保健福祉係、社会福祉協議会、消費者センター、警察などの関係機関と連携し、高齢者の財産や権利を守るよう相談や支援を行いました。					
今後の方向性・課題	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、センターへの相談件数が前年度より減少する見込みです。在宅にすることで、家族からの虐待が増える可能性が高く、また、介護サービスの利用を控えることで虐待が発覚しにくくなることが課題です。今後も関係機関と連携し、高齢者の権利を守るよう支援を行っていきます。					

6 介護にあたる家族への支援 高齢者支援課

活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
介護家族サポーター講座受講者数	90人	120人	116 (+26人/年)	163 (+47人/年)	177 (+14人/年)	A：達成
達成状況	介護家族サポーター養成講座を開催し、要介護高齢者や認知症高齢者等の介護をしている家族が、介護についての不安や悩みなどを安心して話し合える場である「介護家族の会」の活動の支援者を養成しました。					
今後の方向性・課題	要支援・要介護認定者の増加に伴い、高齢者介護家族サポーター養成講座を開催し、介護家族への支援者を養成する必要があります。令和2年度は新型コロナ感染症の流行により、集合講座での開催が困難になっているため、タブレットの利用等、開催方法を検討する必要があります。					

施策評価シート

施策④ 安心して住み続けられる住まいの確保・支援					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	高齢者支援課	関係課	福祉施設整備担当	評価	B：概ね達成	
成果目標	高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるための基盤が確保されている					
成果目標の達成状況及び評価	高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けることができるよう基盤整備を進めました。					
今後の施策の方向性・課題	引き続き介護が必要な高齢者の在宅介護の支援や認知症高齢者の生活の場を確保するための基盤整備を進めます。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 特別養護老人ホームの整備			<i>福祉施設整備担当・高齢者支援課</i>			
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
特別養護老人ホーム施設数及び定員	8施設 (定員729人)	9施設 (定員829人)	8施設 (定員729人)	9施設 (定員829人)	9施設 (定員829人)	A：達成
達成状況	令和2年3月に南麻布四丁目で定員100人の施設を開設しました。					
今後の方向性・課題	今後の高齢者人口や要介護認定者数の推移を踏まえ、施設整備の必要性を検討していく必要があります。					
2 小規模多機能型居宅介護施設の整備			<i>福祉施設整備担当・高齢者支援課</i>			
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
小規模多機能型居宅介護施設数及び定員	4施設 (定員99人)	8施設 (定員215人)	4施設 (定員99人)	4施設 (定員99人)	5施設 (定員128人)	B：概ね達成
達成状況	高輪三丁目に登録定員29人の施設を開設します。三田二丁目については整備地を三田一丁目に変更することから、整備スケジュールを変更します。南青山二丁目については整備スケジュールを変更し、令和5年度の施設開設を予定しています。麻布地区においては、整備地を調整中です。					
今後の方向性・課題	高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けることができるよう基盤整備を進めます。麻布地区については整備地を確定します。					
3 認知症高齢者グループホームの整備			<i>福祉施設整備担当・高齢者支援課</i>			
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
認知症高齢者グループホーム数及び定員	4施設 (定員81人)	6施設 (定員135人)	4施設 (定員81人)	4施設 (定員81人)	5施設 (定員108人)	A：達成
達成状況	高輪三丁目に定員27人の施設を開設します。もう1施設については施設の運営に必要な広さを確保できる規模の整備地を検討中です。					
今後の方向性・課題	既存の認知症高齢者グループホームの入所待ちの状況及び今後の高齢者人口の推移を考慮し、令和2年度末における施設入所待ち人数を50人程度と想定していますが、整備地の確保が課題です。					

施策評価シート

施策⑤ 在宅生活を支えるサービスの充実						A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分
施策担当課	介護保険課	関係課	高齢者支援課	評価	A：達成	
成果目標	住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう、高齢者福祉サービスや介護保険サービスが充実している					
成果目標の達成状況及び評価	サービスが必要な高齢者に対して、個々の状況に応じた必要なサービスにつなげられるようサービスの充実に努めました。また、在宅生活を支援するための住まいの支援やひとり暮らし高齢者等の見守りの充実など、生活実態に即した支援を行いました。					
今後の施策の方向性・課題	社会情勢や地域の実情に応じたサービスの提供が必要です。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 介護予防・生活支援サービスの推進						<i>高齢者支援課</i>
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
介護予防・日常生活支援総合事業対象者数（要介護認定者及び要支援認定者を除く）	570人/年	950人/年	753人/年	784人/年	850人/年	B：概ね達成
達成状況	高齢者が要介護状態にならないよう、生活機能評価事業の実施や、一般の介護予防事業に参加する高齢者で体力や身体機能が低下している人を高齢者相談センターに案内するなど、事業対象者の把握に努めました。目標値には届いていませんが、高齢者相談センターが個々の状態に応じ在宅サービスを続けられるよう必要なサービスにつなぐ、また身体・生活機能の維持・向上のため介護予防事業への参加を積極的に促すなど、年々対象者数は増えています。					
今後の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症に伴う身体及び生活機能の低下や、今後の高齢者人口の増加をふまえ、高齢者が要介護状態にならないよう個々の状況に応じて適切なサービスにつなげるよう更なるサービスの推進が必要です。					
2 高齢者福祉サービスの充実						<i>高齢者支援課</i>
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
在宅支援サービスの受給者数	35,601人/年	37,527人/年	36,577人/年	37,496人/年	37,646人/年	A：達成
達成状況	高齢者の在宅生活を支えるため、訪問電話、配食サービス、救急通報システム、日常生活用具給付等様々なサービスを提供しています。特に介護が必要な人に対しては、紙おむつの給付、理美容サービス、福祉キャブの運行等を実施しています。また、平成31年4月からは、住まいに困窮している高齢者を対象に民間賃貸住宅入居支援事業を実施し、高齢者の良好な住まいの確保を支援しています。引き続き、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、在宅生活を支援するサービスの充実に努めます。					
今後の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、新たな生活環境によるニーズの把握や高齢者の見守りや相談体制を検討する必要があります。					

3 介護サービスの充実							介護保険課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
第三者評価受審実施率	34%	55%	44%	50%	50%	A:達成	
達成状況	未実施である介護事業者に対して、機会を設けて受審を促してきました。その結果、年々介護事業所の受審件数は、増加しています。						
今後の方向性・課題	利用する区民が適切なサービスを選択できるよう、介護事業者に対し継続的な第三者評価事業の受審を促していきます。						
4 介護人材の確保・支援							介護保険課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
初任者・実務者研修費用助成事業利用者数	9人	16人	15人 (+6人/年)	21人 (+6人/年)	27人 (+6人/年)	A:達成	
達成状況	広報みなど、区ホームページや実地指導を通じて区内事業者へ周知を図りました。その結果、研修費用助成者数は、計画値以上に増加しています。						
今後の方向性・課題	介護職員の定着や更なる質の向上のために、本事業を継続的に実施していきます。また、利用者数の増加を図るため、要件の緩和等の見直しを検討していきます。						
5 介護保険制度の円滑な運営							介護保険課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
第1号被保険者介護保険料徴収率	97.7%	98%	98.04%	98.13%	97%	A:達成	
達成状況	介護保険料の徴収は、年金受給されている方は原則、特別徴収（年金からの天引き）となっているため、徴収率が高くなっています。						
今後の方向性・課題	新型コロナウイルス感染症による影響も鑑みながら、普通徴収（納付書による徴収）については、口座振替を推進するなど引き続き、介護保険料徴収率の向上を図ります。						